

平成25年度 事務事業評価シート

※平成24年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	児童遊園新設・整備						継続		
コード	24	-	36	-	01	-	00	予算事業名	児童遊園新設・整備
担当部署	こども未来部	こども育成課			こども支援担当			予算事業コード	会計 10 款 03 項 01 目 09

1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)			位置付けなしの場合	法令による実施義務	義務ではない
基本目標(章)	6章	人と人とのつながりを感じ、安全で安心して暮らせるまち		実施計画事業名	児童遊園新設・整備
方向性(節)	1節	ふれあいと思いやりのある地域社会の形成		個別計画等の名称	なし
施策	4	青少年健全育成の推進		当事業に関連する事務事業	なし
細施策	3	青少年施設の整備・充実			
事業実施の根拠となる法令・条例等	児童福祉法 川越市児童遊園の設置に関する要綱				

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	異年齢の幼児及び児童の交流の場、身近な遊び場として児童遊園を整備することにより、地域における幼児及び児童を交通禍から守り、その健全な育成を図る。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	民間の児童遊園遊具保守点検業者に業務委託をし、その点検結果をもとに、判定の悪いものから、現地を確認し、修繕、交換、撤去等を行っている。また、児童遊園は、児童遊園のある自治会と市が共同管理をしているため、自治会から遊具等の修繕の依頼があれば、状況に応じて整備するようにしている。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
予算額	14,618	25,122	22,902	22,444	21,198	
(25年度予算額大幅増/減の理由)						
事業費 A	32,291	23,496	22,281	21,737	15,198	21,198
人件費 B	9,905	9,905	9,905	9,171	2,201	9,171
総コスト(C=A+B)	42,196	33,401	32,186	30,908	17,399	30,369
正規職員(1年間の従事人数)	1.35人	1.35人	1.35人	1.25人	0.30人	1.25人
臨時職員(1年間の従事人数)						
国県支出金 D						
その他特定財源 E						
市の財政負担(=C-D-E)	42,196	33,401	32,186	30,908	17,399	30,369

※25年度、26年度の事業費、人件費は見込額  
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

評価指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度目標値	将来目標値
遊具等を整備した件数	件	90	81	99	85	20	26年度 80
指標の定義・説明	ブランコ、滑り台、鉄棒、砂場など遊具等を修繕及び整備した件数						
指標の定義・説明							
指標の定義・説明							
指標の定義・説明							

指標に基づく評価

平成24年度まで、当事業に十分な職員配置ができていたとは言えず、それでも安定した修繕を目指して努力してきたが、現状の従事人数を考えると、平成25年度の目標値は下げざるを得ない。

5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況	幼児及び児童が安全に遊具を使用できるよう、年1回の業務委託による遊具の定期点検は必要であり、その点検結果に基づいて、修繕箇所を確認していきたいが、現在の職員配置では、平成25年度のCランクDランクの修繕を要する遊具120基に対応していくことは困難な状況になっている。また、技師などの専門的な知識をもった職員がいないため、設計書の作成、修繕等の方法にも課題がある。
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	中核市の中には、公園緑地課や公園整備課などが児童遊園を所管しているところも多々あり、技師などの専門的な職員が対応しているケースが見受けられる。
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	地域で子どもたちが野外で遊ぶ場が少なくなってきた中で、児童遊園は、児童の健全な育成を助長する施設として、その中核を担っているため、廃止・縮小したときの影響は大きい。

# 平成25年度事務事業評価 方向性提示シート

所管部署		こども未来部				こども育成課	こども支援担当
事務事業名称		24	36	01	00	児童遊園新設・整備	
今後3年間の方向性	25年度	継続					
	26年度	継続					
	27年度	継続					